専門分野（基礎看護学）

授業科目	看護学概論		
教育方法 開講学期	講義 1年次　1学期	単位・時間数	1単位　30時間
講師名	教員・院内講師（看護部）		
科目目標	看護の概念と、看護の対象である人間とその健康及び看護の果たす役割を理解し、看護学の基盤をつくることができる		

回数	授業内容	備考
	1．看護とは 1）看護の本質 2）看護の役割と機能 3）看護の継続性と連携 2．看護の対象の理解 1）人間の「こころ」と「からだ」を知ることの意味 2）生涯発達し続ける存在としての人間理解 3）人間の「暮らし」の理解 3．国民の健康状態と生活 1）健康の捉え方 2）国民の健康状態 3）国民のライフサイクル 4．看護の提供者 1）職業としての看護 2）看護職の資格・養成制度・就業状況 3）看護職者の継続教育とキャリア開発 4）看護職の養成制度の課題 5．看護における倫理 1）現代社会と倫理 2）医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 3）看護実践における倫理課題への取り組み 6．看護の提供のしくみ 1）サービスとしての看護 2）看護サービス提供の場 3）看護をめぐる制度と政策 4）看護サービス管理 5）医療安全と医療の質の保証 7．広がる看護の活動領域 1）国際化と看護 2）災害時における看護	

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	看護学概論：医学書院 フローレンス・ナイチンゲール「看護覚え書き」：日本看護協会出版会 ヴァージニア・ヘンダーソン「看護の基本となるもの」：日本看護協会出版会

授業科目	共通看護技術Ⅰ		
教育方法 開講学期	講義　・　演習 1年次　　1学期	単位・時間数	1単位　　30時間
講師名	教員		
科目目標	看護専門職として看護活動に必要な基本技術の概念と構造を理解し、あらゆる看護活動に共通する技術を身につける		

回数	授業内容	授業方法	備考
1	1．看護技術とは	講義	＜関連科目＞
1	1）看護技術の特徴		看護学概論
1	2）看護技術の質		微生物学
1	3）看護技術における倫理		人間関係論
	4）看護技術におけるリフレクション		基礎看護学演習
1	5）看護技術における安全の意義		*安全と身体拘束について考える内容を含む
1	6）看護技術における安楽の意義		
15	2．安楽を整える技術		*臨床で起こりやすい医療事故事例をふまえて説明を行う
15	1）安楽を整える技術の基礎知識		
15	2）温罨法・冷罨法の技術演習	演習	
2～3	3．人間関係形成のための技術	講義	
2～3	1）言語的コミュニケーション		
2～3	2）非言語的コミュニケーション		
4～5	3）面接技法		
6	4）コミュニケーションの技術演習	演習	
7	4．感染予防の技術	講義	
7	1）感染予防の基礎知識		
8	2）標準予防策		
9	3）感染経路別予防策		
9	（1）標準予防策・防護用具の技術演習	演習	
10	4）洗浄・消毒・滅菌	講義	
11	5)無菌操作		
12	（1）鑷子、滅菌包装の取り扱いの技術演習	演習	
13	6）感染性廃棄物の取り扱い	講義 演習	
13	7）感染症発生時の対応		
14	8）針刺し事故防止		

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ:医学書院 根拠と事故防止から見た基礎臨床看護技術：医学書院 ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント： ヌーヴェルヒロカワ

授業科目	共通看護技術Ⅱ		
教育方法 開講学期	講義　・　演習 1年次　1学期	単位・時間数	1単位　　30時間
講師名	教員		
科目目標	対象の健康状態を評価するための基礎技術を身につける		

回数	授業内容	授業方法	備考
1	1．ヘルスアセスメント	講義	＜関連科目＞
1	1）ヘルスアセスメントとは		生活科学
1	2）健康歴とセルフケア能力のアセスメント		成人看護実践論Ⅱ
1	（1）問診・インタビュー		成人看護実践論Ⅲ
2	3）フィジカルアセスメントとは		成人看護学演習Ⅱ
2	4）フィジカルアセスメントに必要な技術		基礎看護学演習
2	（1）視診　（2）触診　（3）聴診　（4）打診		*技術演習はリフレクションを含む
3	5）身体計測		
3	（1）身長（2）体重（3）胸囲（4）腹囲		*臨床で起こりやすい医療事故事例をふまえて説明を行う
3	6）体温維持のフィジカルアセスメント		
4～13	（1）体温（2）体温測定の技術演習		
4～13	7）呼吸器系のフィジカルアセスメント		
4～13	（1）胸郭の観察　（2）呼吸音の聴取		
4～13	（3）呼吸音の聴取、SpO2の測定の技術演習		
4～13	8）循環器系のフィジカルアセスメント		
4～13	（1）心臓の触診（心尖拍動）　（2）心音の聴取	講義・演習	
4～13	（3）心尖拍動の触診、心尖部での心音の聴診の技術演習		
4～13	（4）脈拍　（5）血圧　（6）脈拍・血圧測定の技術演習		
14～15	9）乳房・腋窩のフィジカルアセスメント		
14～15	（1）乳房および腋窩（リンパ節）の視診・触診		
14～15	（2）胸囲の測定の技術演習		
14～15	10）腹部のフィジカルアセスメント		
14～15	（1）腹部の視診　（2）腸蠕動音の聴取		
14～15	（3）腹囲の測定・腸蠕動音の聴診の技術演習		
14～15	11）筋・骨格系のフィジカルアセスメント		
14～15	（1）日常生活動作（ADL）（2）関節可動域（ROM）	講義	ROM測定とMMTは疾病治療論Ⅳで技術演習を行う
14～15	（3）徒手筋力テスト（MMT）		
14～15	12）神経系のフィジカルアセスメント		
14～15	（1）感覚機能　（2）反射　（3）意識	講義・演習	
14～15	（4）意識・反射の観察の技術演習		
14～15			

評価の方法	技術試験・筆記試験
テキスト	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ：医学書院 看護がみえる　フィジカルアセスメント：医療情報科学研究所 からだの地図帳：講談社　　解剖生理学:医学書院

授業科目	共通看護技術Ⅲ		
教育方法 開講学期	講義　・　演習 1年次　　2学期	単位・時間数	1単位　　30時間
講師名	教員		
科目目標	各看護学の基盤となる看護過程の構造を理解し、看護実践に必要な思考を身につける		

回数	授業内容	授業方法	備考
1～5	1．看護過程の基になる考え方と理論	講義および演習	＜関連科目＞
1～5	1）看護過程とは		看護学概論
1～5	2）看護過程と問題解決過程		論理的思考
1～5	3）看護過程とクリティカルシンキング		成人看護学演習Ⅱ
1～5	4）看護過程と看護理論の関係		基礎看護学演習
1～5	（ヘンダーソン、オレム、ロイ）		
1～5	5）看護診断（ゴードン）		
1～5	6）臨床推論・臨床判断と看護過程		
6～13	2．看護過程展開の技術		
6～13	1）情報の種類、収集方法と分析・解釈の統合		
6～13	2）看護問題の明確化と優先順位決定		
6～13	3）看護目標の設定と計画		
6～13	4）実施・評価		
6～13	5）看護記録		
6～13	（1）記録の意義		
6～13	（2）種類と法的根拠		
6～13	（3）記録の方法と注意点		
6～13	（4）記録の管理		
6～13	6）報告の必要性と方法		
6～13	7）医療計画とクリニカルパス		
14	3．学習支援 1）学習に関わる諸理論 2）看護における学習支援とは 3）健康に生きることを支える学習支援 4）健康状態の変化に伴う学習支援 5）看護の中に含まれる学習支援		
15	4．まとめ		

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ：医学書院 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践：ヌーヴェルヒロカワ ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト：ヌーヴェルヒロカワ 看護過程に沿った対症看護：学研

授業科目	日常生活援助技術Ⅰ		
教育方法 開講学期	講義　・　演習 1年次　　1学期	単位・時間数	1単位　　30時間
講師名	教員		
科目目標	環境を整える援助および活動・休息を整える援助技術を身につける		

回数	授業内容	授業方法	備考
1～3	1．生活環境を整える技術	講義	＜関連科目＞
1～3	1）生活環境調整の意義		生活科学
1～3	2）療養者と環境		解剖生理学Ⅳ
1～3	3）療養環境の構成因子		共通看護技術Ⅰ～Ⅲ
1～3	（1）温度・湿度（2）照度（3）騒音（4）換気		
1～3	（5）採光（6）臭気（7）プライバシーの保護		基礎看護学演習
1～3	4）病床に必要な要件		
1～3	5）生活環境調整の援助方法		
4～5	（1）環境調整　　（2）ベッドメーキング		*技術演習はリフレクションを含む
4～5	（3）環境整備・ベッドメイキング	演習	
4～5	臥床患者のリネン交換	講義	*臨床で起こりやすい医療事故事例をふまえて説明を行う
13～15	6）個々の患者に適した援助方法の選択 （1）対象の状態と観察（2）援助の目的と方法		
6～9	2．活動・運動		*病棟の環境見学
6～9	1）活動・運動の意義		
6～9	2）活動・運動に影響する要因		
6～9	3）活動・運動のアセスメント		
6～9	4）活動・運動の援助方法		
6～9	（1）姿勢と体位の保持、ポジショニング		※対象のもてる力を活用して行う
6～9	（2）体位変換・床上移動		
6～9	（3）車椅子への移乗と移送		
6～9	（4）ストレッチャーへの移乗と移送		
6～9	（5）歩行介助		
10～12	（6）体位変換・床上移動・車椅子及び ストレッチャーの移乗と移送の技術演習	演習	
6～9	3．休息・睡眠の援助技術	講義	
6～9	1）休息・睡眠の意義		
6～9	2）休息・睡眠に影響する要因		
6～9	3）休息・睡眠のアセスメント		
6～9	4）療養生活におけるレクリエーション		
6～9	5）睡眠を促す援助方法		

評価の方法	技術試験（ベッドメーキング）・筆記試験
テキスト	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ：医学書院 根拠と事故防止から見た基礎臨床看護技術：医学書院

授業科目	日常生活援助技術Ⅱ		
教育方法 開講学期	講義　・　演習 1年次　　1学期	単位・時間数	1単位　　30時間
講師名	教員		
科目目標	清潔・衣生活を整える援助技術を身につける		

回数	授業内容	授業方法	備考
1	１．清潔の援助	講義	＜関連科目＞
1	1）身体の清潔の意義		生活科学
1	2）清潔に影響する要因		解剖生理学Ⅳ
1	3）清潔のアセスメント		共通看護技術Ⅰ～Ⅲ
4	4）身体各部の清潔の援助方法		
4	（1）入浴、シャワー浴		基礎看護学演習
5	（2）全身清拭		
7	（3）口腔ケア		
9	（4）洗髪		*技術演習はリフレクションを含む
11	（5）部分浴（手浴、足浴）		
13	（6）陰部洗浄		
15	（7）整容		*臨床で起こりやすい医療事故事例をふまえて説明を行う
6．8．10．12．14	（8）清拭・口腔ケア・臥床患者の洗髪・足浴・陰部洗浄の技術演習	演習	
2	２．衣生活の援助	講義	
2	1）衣生活の意義		
2	2）衣生活に影響する要因		
2	3）衣生活のアセスメント		
2	4）衣生活の援助方法		
2	（1）病衣の選択		
3	（2）寝衣交換		
	（3）臥床患者の寝衣交換の技術演習	演習	

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ：医学書院 根拠と事故防止から見た基礎臨床看護技術：医学書院

授業科目	日常生活援助技術Ⅲ		
教育方法 開講学期	講義　・　演習 1年次　　1学期	単位・時間数	1単位　　15時間
講師名	教員		
科目目標	食事・排泄を整える援助技術を身につける		

回数	授業内容	授業方法	備考
1	1．食事の援助	講義	＜関連科目＞
1	1）食事・栄養の意義		生活科学
1	2）食事・栄養摂取に影響する要因		解剖生理学Ⅱ・Ⅲ
2	3）食事・栄養状態のアセスメント		共通看護技術Ⅰ～Ⅲ
3	4）食事摂取の援助方法		基礎看護学演習
4	臥床患者の食事介助の技術演習	演習	
			*技術演習はリフレクションを含む
5	2．排泄の援助		*臨床で起こりやすい医療事故事例をふまえて説明を行う
5	1）排泄の意義		
5	2）排泄に影響する要因		
5	3）排泄のアセスメント		
6	4）自然な排便・排尿を促す援助方法		
6	（1）トイレにおける排泄介助		
6	（2）床上での尿器・便器・おむつの援助方法		
6	（3）排便を促す援助		
7～8	（4）便器・尿器の当て方、おむつ交換の技術演習	演習	

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ：医学書院 根拠と事故防止から見た基礎臨床看護技術:医学書院

授業科目	基礎看護学演習		
教育方法 開講学期	講義　・　演習 1年次　　2学期	単位・時間数	1単位　　30時間
講師名	教員		
科目目標	基礎看護学における思考過程、実践能力を身につける		

回数	授業内容	授業方法	備考
	1．健康障害をもつ対象を全人的に捉える 1）生活を営む人のアセスメント 「食事」「排泄」「活動と休息」 「更衣・整容」 「呼吸・体温調節」「環境」 「心理・社会的側面」 2．健康障害をもつ対象への看護過程の展開 1）健康障害をもつ患者の状態に応じた援助 2）家族への支援	講義 演習	＜関連科目＞ 看護学概論 共通看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 日常生活援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ *臨床で起こりやすい医療事故事例をふまえて説明を行う *共通した事例を通しリフレクションを含む演習を行う。 *演習の中で臨床判断能力、ケアリング、看護倫理についてふれる。

評価の方法	筆記試験およびレポート、事例患者への看護実践等
テキスト	看護学概論：医学書院 基礎看護技術Ⅰ：医学書院 看護が見える　フィジカルアセスメント：メディックメディア ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント：ヌーベルヒロカワ 看護過程に沿った対象看護：学研

授業科目	診療の補助技術Ⅰ		
教育方法 開講学期	講義　・　演習 1年次　　2学期	単位・時間数	1単位　　30時間
講師名	教員		
科目目標	検査・処置を受ける患者の看護技術を身につける		

回数	授業内容	授業方法	備考
1	1．診察、検査・処置時の看護師の役割	講義	＜関連科目＞
1	1）診察時の援助の実際		解剖生理学Ⅱ
1	2）検査・処置時の援助の実際		解剖生理学Ⅳ
			微生物学
			臨床検査
2	2．検査時の援助方法		疾病治療論Ⅳ
2	1）検体検査の種類と採取方法		成人看護実践論Ⅱ
2	（1）尿、便、喀痰		
3～4	（2）静脈血採血		共通看護技術Ⅰ～Ⅲ
6	（3）血糖測定		
5	（4）静脈血採血・血糖測定の技術演習	演習	*技術演習はリフレクションを含む
10	3．処置時の援助方法	講義	*臨床で起こりやすい医療事故事例をふまえて説明を行う
10	1）呼吸を整える技術		
10	（1）呼吸を楽にする姿勢・呼吸法		
11	（2）排痰法		
11	①排痰法の基礎知識		
11	②援助の実際		
	・体位ドレナージ・咳嗽介助		体位ドレナージの演習は、疾病治療論Ⅳで行う
	・口腔内・鼻腔内吸引・気管内吸引		
	・ネブライザー		
14	（3）酸素吸入の適応と方法		
12～13	（4）口腔内・鼻腔内・気管内吸引の技術演習	演習	
15	（5）酸素吸入の技術演習	講義	
7	2）皮膚・創傷の管理		
7	（1）創傷の種類・治癒過程と観察		
7	（2）創傷の管理・ドレーン類挿入部		
8	（3）ドレッシング・包帯法		
9	（4）創傷管理・包帯法の技術演習	演習	

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ：医学書院 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術:医学書院 からだの地図帳：講談社

授業科目	診療の補助技術Ⅱ		
教育方法 開講学期	講義　・　演習 2年次　　1学期	単位・時間数	1単位　　30時間
講師名	教員		
科目目標	与薬を受ける患者の看護技術を身につける		

回数	授業内容	授業方法	備考
1	1．薬物療法の理解	講義	＜関連科目＞
1	1）与薬の意義・目的		解剖生理学Ⅱ
1	2）与薬の看護師の役割と責任		解剖生理学Ⅳ
1	（1）薬理作用・副作用と観察		薬理学
1	（2）薬剤の正しい取扱い		共通看護技術Ⅰ～Ⅲ
1	（3）誤薬・誤認防止		
1	（4）薬物の暴露の危険性と予防策		*技術演習はリフレクションを含む
1	（5）起こりやすい合併症と生活への影響		
2	2．経口およびその他の方法による与薬の看護		*臨床で起こりやすい医療事故事例をふまえて説明を行う
2	1）経口与薬		
2	2）口腔内与薬		
2	3）直腸内与薬		
3	4）経皮的与薬		
3	5）点眼・点鼻		
3	6）吸入		
4	7）直腸内与薬の技術演習	演習	
	3．注射法による与薬の看護	講義	
5～6	1）注射の基礎知識		
7	2）皮下注射		
7	3）皮内注射		
10	4）筋肉内注射		
12	5）静脈内注射		
12	6）点滴静脈内注射、三方活栓の取り扱い		
15	7）輸血		
8. 9. 11. 13. 14	8）皮下注射・筋肉内注射・点滴静脈内注射（三方活栓の取り扱い）の技術演習	演習	

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ：医学書院 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術：医学書院 からだの地図帳：講談社

授業科目	臨床看護総論		
教育方法 開講学期	講義　・　演習 1年次　　2学期	単位・時間数	1単位　　30時間
講師名	非常勤講師		
科目目標	1．それぞれの健康段階にある患者および家族を理解し、健康段階に合わせた看護の考え方を学ぶ 2．症状・治療に合わせた看護の基本を学ぶ		

回数	授業内容	備考
	1．おもな看護展開の場と看護の機能 2．看護の役割と機能を支えるしくみ 3．健康段階からみた看護の臨床判断 1）急激な身体侵襲により急性期及び回復過程にある患者の看護 （1）急性期の看護の概念 （2）急性期の患者のニーズ （3）急性期にある患者の治療の特徴と看護 ①救命救急、手術時の医療の責任と役割 ②安静療法を受ける患者の看護 2）障害への適応と社会復帰への看護 （1）障害を持つ患者の看護の概念 （2）障害を持つ患者のニーズ、アセスメント （3）障害を持つ患者の治療の特徴と看護 ①障害受容と日常生活動作の制限、食事療法を受ける患者の看護 3）慢性的な経過をたどる健康障害への看護 （1）慢性期の看護の概念 （2）慢性期の患者のニーズ ①疾病・病状の自己管理 ②疾病・病状の健康障害の受容 （3）慢性期にある患者の治療の特徴と看護 ①セルフケア行動継続と薬物療法を受ける患者の看護 4）終末期の看護 （1）終末期の看護の概念 （2）終末期の患者のニーズ （3）終末期にある患者の治療の特徴と看護 ①死の受容過程に応じて緩和ケアを受ける患者の看護 ②死後の処置とグリーフケア 4．主要症状のある患者の看護 1）痛み　2）循環障害　3）呼吸障害　4）排泄障害 5）意識障害 5．治療・処置を受けている患者の看護 1）輸液療法　　2）食事療法　　3）化学療法 4）放射線療法　　5）手術療法	＜関連科目＞ 疾病治療総論 看護学概論

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	臨床看護総論：医学書院 成人看護学総論：医学書院 臨床外科看護総論：医学書院 看護過程に沿った対症看護：学研

授業科目	基礎看護学実習Ⅰ		
教育方法 開講学期	実習 1年次　　2学期	単位・時間数	1単位　　30時間
講師名	教員		
科目目標	生活者である対象に必要な日常生活援助が実施できる		

授業内容

1．対象を理解するための観察、気づく力

2．患者－看護師関係形成に向けたコミュニケーション

3．療養環境の調整

4．対象に必要な日常生活援助

5．看護師に必要な責任ある行動や態度

実習場所	実習要項参照
評価方法	評価表に基づいた評価

授業科目	基礎看護学実習Ⅱ		
教育方法 開講学期	実習 1年次　　2学期	単位・時間数	2単位　　90時間
講師名	教員		
科目目標	1．生活者である対象に応じた看護の実践に看護過程技術を適用し、問題解決法を身につける ２．健康障害のある対象の看護問題を判断し、計画を立案・実施・評価する一連の過程を行い、看護過程の理解を深める		

授業内容

１．理論的枠組みを活用した健康障害にある対象理解

２．患者－看護師関係の成立に向けたコミュニケーション

３．健康障害のある対象の看護問題の抽出と計画立案

４．健康障害のある対象の看護

５．看護師に必要な責任ある行動や態度

実習場所	実習要項参照
評価方法	評価表に基づいた評価

専門分野（地域・在宅看護論）

授業科目	地域・在宅看護概論Ⅰ		
教育方法 開講学期	講義 1年次　1学期	単位・時間数	1単位　15時間
講師名	教員		
科目目標	暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解する		

授業内容	備考
1．在宅看護が必要とされている背景と根拠 社会情勢　地域共生社会　地域包括ケアシステム 2．暮らすということ 1）子どもを生み育てる 2）学ぶ・働く・病を治す 3）老いとともに生きる 4）最期を迎える 5）在宅療養者の自立・自律支援 （価値観の尊重と意思決定支援、QOLの維持・向上、 セルフケア、社会参加への援助） 3．支えあって生きるとは 1）家族・仲間・近隣の人々 2）学校や職場・支え合い 3）自助・互助・共助・公助 4）地域共生社会・ボランティア活動 4．地域の生活環境が健康に与える影響 1）文化的環境 2）社会的環境 3）自然環境 4）公衆衛生の基本 5．その人らしい生活とは 暮らし（家族・生活・地域）と健康の関係性	＜関連科目＞ 看護学概論 社会学 人間関係論 異文化関係論 臨床看護総論 公衆衛生学 社会福祉 認知症サポーター養成講座受講 訪問看護への同行・民生児童委員へのインタビューによりその人らしい生活を捉える ＊健康状態、発達段階については看護学概論にて学び、具体的な健康状態については臨床看護総論で学ぶ

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	地域療養を支えるケア：MCメディカ出版 家族看護学　：メディカ出版 講師資料

授業科目	地域・在宅看護概論Ⅱ		
教育方法 開講学期	講義 1年次　2学期	単位・時間数	1単位　15時間
講師名	非常勤講師		
科目目標	地域・在宅看護の対象と健康と暮らしを支える法制度とシステム、看護を理解する		

授業内容	備考
1．地域・在宅看護の概念・目的 1）地域・在宅看護の背景 2）地域・在宅看護の基盤 3）地域・在宅看護を展開するための基本理念 4）地域・在宅看護における倫理 2．地域・在宅看護論の対象と家族の支援 1）地域に暮らすすべての人々(胎児期～老年まで) 2）健康状態（在宅における病状・病態の経過の予測と予防、健康の良い状態～終末期まで) 3）発達段階 4）家族(疾病がある者と家族、障害がある者と家族) 5）家族アセスメントにおける主な理論 （1）家族発達理論 （2）家族システム理論 （3）家族アセスメントモデル 3．地域・在宅看護論に関連する法と制度と施策 1）地域・在宅看護の背景、国民の価値観 2）地域医療構想・地域包括ケアシステム 3）医療保険、介護保険制度と施策 4）訪問看護に関する法と制度 5）権利保障に関する法と制度 6）各保健、障害者等に関する法と施策	＜関連科目＞ 看護学概論 老年看護学概論 公衆衛生学 社会福祉 保健医療論 関係法規 看護の統合と実践

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	地域療養を支えるケア：MCメディカ出版 在宅療養を支える技術：MCメディカ出版 国民衛生の動向

授業科目	地域・在宅看護実践論Ⅰ		
教育方法 開講学期	講義 2年次　1学期	単位・時間数	1単位　30時間
講師名	非常勤講師		
科目目標	地域・在宅看護の対象と健康と暮らしを支える看護を理解し、看護を展開する場の特徴と看護の基盤となる方法を理解する		

授業内容	備考
１．健康と暮らしを支える対象の安全と危機管理 １）在宅における危機管理 （１）在宅の場で起こり得る事故の予防と対応 （２）在宅医療におけるリスクの特徴 ２）日常生活における安全管理 （１）家屋環境の調整　（２）転倒転落の防止 （３）誤嚥窒息の防止　（４）熱傷凍傷の防止 （５）熱中症の防止　（６）感染症の防止 （７）閉じこもり予防 ３）災害時における対象と家族の危機管理 （１）対象と家族への防災対策 （２）地域団体との連携　（３）医療機関との連携 （４）福祉機関との連携　（５）行政との連携 （６）独居高齢者の防災、多職種連携、協働 ４）地域・在宅看護における権利の保障 （１）権利擁護　（２）虐待防止 （３）個人情報の保護　（４）提供者側の権利の保護 ２．看護が提供される多様な場に応じた看護の特徴と役割 ・病院（外来、入院）、診療所　・居宅（自宅、施設） ・療養通所介護事業所　・訪問看護事業所 ・看護小規模多機能型居宅介護　・通所サービス ・地域包括支援センター　・特別支援学級 ・発達障害デイサービス ・保健センター（母子健康包括支援センター含む） ３．訪問看護の概要 １）訪問看護制度の理解　２）訪問看護制度の法的枠組み ３）訪問看護サービスの仕組みと提供 ４．地域・在宅看護の展開 １）訪問看護のマナー　２）看護展開の特徴 ３）看護技術の特徴　４）健康教育 ５）フィジカルアセスメント６）看取りの看護	＜関連科目＞ 基礎看護学 看護学概論 臨床看護総論 成人看護学概論 社会福祉 公衆衛生学

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	地域療養を支えるケア：MCメディカ出版 在宅療養を支える技術：MCメディカ出版

授業科目	地域・在宅看護実践論Ⅱ		
教育方法 開講学期	講義 2年次　2学期	単位・時間数	1単位　30時間
講師名	非常勤講師・院内講師（看護部）		
科目目標	地域で生活する人々とその家族の看護について理解する		

授業内容	備考
1．在宅療養において特徴的な疾病がある療養者への看護	＜関連科目＞
1）誤嚥性肺炎を生じた超高齢者：急性期	成人看護学
2）中途障害による脊髄損傷療養者:慢性期	社会福祉
3）インスリン自己注射を開始する糖尿病療養者:慢性期	小児看護学
4）脳梗塞後遺症で高次脳機能障害のある療養者:回復期	老年看護学
5）在宅で終末期を迎える療養者:終末期	精神看護学
6）老々介護であるパーキンソン病療養者	
7）壮年期のALS療養者	
8）在宅療養を開始する重症心身障害児	
9）生活の自立を目指す精神障害者	
10）日中独居の認知症療養者	
2．難病がある在宅療養者への看護 （病期や機能障害に応じた看護を含む）	
1）重症筋無力症	*上記の事例と
2）ギランバレー症候群	併せて講義を
3）ＡＬＳ	行う
3．在宅における医療管理を必要とする人への看護	
1）薬物療法	・在宅人工呼吸療法、侵襲的陽圧換気療法については成人実践論Ⅰにて学ぶ
2）酸素療法	
3）人工呼吸療法(非侵襲的換気法)	
4）膀胱留置カテーテル	
5）胃瘻・経管栄養法	・ストマ管理は成人看護学演習Ⅱにて学ぶ
6）中心静脈栄養法	
7）褥瘡管理	
8）在宅CAPD管理	
4．継続看護の意義と方法	
1）医療依存度の高い対象の退院支援と調整	

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	地域療養を支えるケア：MCメディカ出版 在宅療養を支える技術：MCメディカ出版 成人看護学　脳神経:医学書院

授業科目	地域・在宅看護論演習Ⅰ		
教育方法 開講学期	講義　・　演習 2年次　　1学期	単位・時間数	1単位　　30時間
講師名	非常勤講師・教員		
科目目標	地域・在宅看護の基盤となる看護技術や方法を学ぶ		

授業内容	備考
1．地域で生活する人と家族のアセスメント 1）ヘルスアセスメント 2）病態・症状のアセスメント 3）家族のアセスメント 4）生活のアセスメント 5）事例に必要な多職種連携・協働 2．訪問時のマナーの実際 3．在宅生活を支える看護技術の実際 1）基本的な技術 （1）コミュニケーション （2）フィジカルアセスメント （3）環境整備 （4）生活リハビリテーション （5）感染予防 （6）ターミナルケア （7）療養者・家族への学習支援 2）日常生活を支える看護技術 （1）食生活 （2）呼吸 （3）排泄 （4）睡眠 （5）清潔と更衣 （6）肢位の保持と姿勢 4．地域貢献活動の実際 地域が求める互助の役割　ボランティア活動	＜関連科目＞ 公衆衛生学 社会福祉 老年看護学 成人看護学概論 ＜技術演習項目＞ 浣腸・摘便 導尿 清水町保健センターよりゲートキーパー養成講座を受ける

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	地域療養を支えるケア：MCメディカ出版 在宅療養を支える技術：MCメディカ出版

授業科目	地域・在宅看護論演習Ⅱ		
教育方法 開講学期	講義　・　演習 2年次　　2学期	単位・時間数	1単位　　30時間
講師名	教員		
科目目標	地域で生活する人々とその家族の看護について理解し実践方法を知る		

授業内容	備考
1．在宅療養者の状態に応じた援助の実際 1）在宅看護における看護過程の展開 事例を通してケース・ケアマネジメントの実施 (1) ALSで在宅人工呼吸器を装着した対象と家族 ①意思決定支援 ②在宅経管栄養法の看護 ③在宅人工呼吸器装着の看護：治療の場から移行の支援 (医療機関との入退院時の連携、施設との入退所時の連携) ④療養者とその家族への指導 ⑤社会資源の活用 (地域包括ケアシステムおける多職種連携として行政、地域包括、居宅支援事業所、介護サービス事業所、住民との連携) ⑥在宅寝たきりの対象に対する日常生活援助 ⑦看取りの看護 ⑧グリーフケア (2) 多重課題の家族の看護過程の展開 家族介護力不足、経済的困窮などの社会問題化している事例に対する包括的なアプローチの実際 (疾病を持つ認知症高齢者と障害を持つ子との世帯に対するアプローチの検討)	＜関連科目＞ 基礎看護学 社会福祉 成人看護学 老年看護学 ＜技術演習項目＞ 経鼻胃チューブの挿入 経管栄養法による流動食の注入

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	地域療養を支えるケア：MCメディカ出版 在宅療養を支える技術：MCメディカ出版

授業科目	地域・在宅看護論実習		
教育方法 開講学期	実習 3年次　　1・2学期	単位・時間数	3単位　　90時間
講師名	教員		
科目目標	地域で生活する対象とその家族を理解し、健康保持増進、疾病の予防、および療養を支える援助が実践できる能力を養う		

授業内容

1．地域で生活のする対象とその家族の生活

2．地域の特性と健康課題を理解し健康の保持増進と疾病を予防する看護援助

3．地域で生活する対象とその家族を支える、地域包括ケアシステムの構築・推進と看護機能の充実を図る必要性

4．地域で生活する対象とその家族を支える継続したケア提供と保健医療福祉における協働と連携の実際

5．地域で生活する対象とその家族の生活の特性を踏まえた安全なケア環境の提供と健康危機管理に関わる基本的な援助

6．看護師として必要な責任ある行動や態度

実習場所	実習要項参照
評価方法	評価表に基づいた評価

専門分野（成人看護学）

授業科目	成人看護学概論		
教育方法 開講学期	講義 1年次　　2学期	単位・時間数	1単位　　30時間
講師名	非常勤講師・教員		
科目目標	1．成人期にある人々の特徴と生活及び健康問題の特徴について理解できる 2．成人期における看護の目的について理解できる 3．成人看護に有用な概念や理論について理解できる 4．成人期にある人々の健康保持・増進と疾病予防のための看護について理解できる		

授業内容	備考
1．成人の特徴と生活 1）成人の生涯発達の特徴 （1）青年期・壮年期・向老期の身体の特徴 （2）青年期・壮年期・向老期の心理社会的な特徴 2）成人と生活 （1）家族形態と機能　　（2）社会状況の変化と成人の生活 3）成人保健・医療・福祉の動向 2．成人に特有な健康問題の特徴 1）健康バランスに影響を及ぼす要因 2）生活行動がもたらす健康問題 （1）生活習慣　（2）職業　　（3）ストレス 3．成人への看護の基本 1）生活の中で健康行動を生み、はぐくむ援助　2）家族支援 4．成人看護に有用な概念・理論 1）アンドラゴジー 2）ヘルスプロモーション 3）危機モデル（フィンクのモデル） 4）ストレスコーピング 5）病みの軌跡 6）セルフケア理論 7）エンパワメント 5．健康保持・増進、疾病の予防に向けたアプローチ 1）生活習慣病に関連する健康障害の予防 （1）生活習慣病の発生要因と対応 （2）生活習慣病の発症予防とセルフケアへの支援 2）職業性疾患に関連する健康障害の予防 （1）職業性疾患の予防と対応 ①化学的要因　②物理的因子　③作業条件 （2）職業性疾患を考慮した看護師の役割 3）ストレスに関連する健康障害の予防 （1）ストレス関連疾患の予防と対応 （2）ストレス関連疾患を考慮した看護方法	＜関連科目＞ 心理学 看護学概論 公衆衛生学 社会福祉

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	成人看護学総論：医学書院　　国民衛生の動向

授業科目	成人看護実践論Ⅰ		
教育方法 開講学期	講義 2年次　　1学期	単位・時間数	1単位　　30時間
講師名	院内講師（看護部）		
科目目標	1. 呼吸機能障害のある成人への看護について理解できる 2. 循環機能障害のある成人への看護について理解できる 3. 消化・吸収機能障害のある成人への看護について理解できる		

授業内容	備考
1. 呼吸機能障害のある患者の看護 1）原因と障害の程度のアセスメントと看護 （1）酸素化障害(ガス交換)　（2）換気障害(換気運動) （3）呼吸運動障害　（4）生命・生活への影響 2）主な検査と治療、それらに対する看護 （1）肺野の聴診(異常音)　（2）気管支鏡検査　（3）胸腔穿刺 （4）肺生検　（5）人工呼吸療法（非侵襲的陽圧換気・侵襲的陽圧換気） 3）病期や機能障害に応じた看護 （1）肺がん（経過、化学・放射線療法、肺切除術、胸腔ドレナージ含む） （2）肺炎　（3）慢性閉塞性肺疾患(経過含む)　（4）気管支喘息 2. 循環機能障害のある患者の看護 1）原因と障害の程度のアセスメントと看護 （1）ポンプ機能障害　（2）刺激伝導障害　（3）血管・リンパ管障害 （4）生命・生活への影響 2）主な検査と治療、それらに対する看護 （1）心音聴診（心雑音）　（2）心血管超音波 （3）心臓血管造影検査　（4）心臓カテーテル （5）経皮的冠動脈形成術　（6）冠動脈バイパス術 （7）大動脈内バルーンパンピング 3）病期や機能障害に応じた看護 （1）心不全 （2）虚血性心疾患 (経皮的冠動脈形成術、冠状動脈バイパス術の看護も含む) （3）弁膜症 (弁置換術・弁形成術の看護も含む) （4）不整脈 (ペースメーカー装着、植え込み型除細動器の看護も含む) （5）下肢動脈閉塞症（血栓溶解療法・血栓除去術・下肢切断術含む） 3. 消化・吸収機能障害を抱えながら生活する人の看護 1）原因と障害の程度のアセスメントと看護 （1）咀嚼・嚥下障害　（2）消化管機能障害　（3）膵液分泌障害 （4）胆汁分泌障害　（5）生命・生活への影響 2）主な検査と治療、それらに対する看護 （1）視診・聴診・打診・触診（腹水・脾腫・肝腫・圧痛点） （2）上部消化管および大腸内視鏡　（3）上部・下部消化管造影 （4）内視鏡的逆行性胆管膵管造影　（5）直腸診 （6）消化管手術後ドレーン挿入　（7）胆道・胆嚢ドレーン挿入 3）病期や機能障害に応じた看護 （1）潰瘍性大腸炎・クローン病　（2）胃・十二指腸潰瘍 （3）胆石症（腹腔鏡下手術前後の看護含む） （4）食道がん（食道切除術前後の看護も含む） （5）胃がん（胃切除術前後の看護も含む） （6）大腸がん (大腸切除術前後および人工肛門造設術前～術後のセルフケア習得までの内容含む) (急性～回復期患者の看護についての内容を含む) （7）急性膵炎	＜関連科目＞ 解剖生理学 病理学 薬理学 臨床検査 疾病治療論 診療の補助技術 共通看護技術Ⅱ ※ストマ管理含む

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	成人看護学：医学書院「循環器」「呼吸器」「消化器」 臨床外科総論：医学書院 基礎看護技術Ⅰ：医学書院　フィジカルアセスメントがみえる：メディックメディア

授業科目	成人看護実践論Ⅱ		
教育方法 開講学期	講義 2年次　　1学期	単位・時間数	1単位　　30時間
講師名	非常勤講師・機構講師（看護部）		
科目目標	１．栄養代謝機能障害のある成人への看護について理解できる ２．脳・神経機能障害のある成人への看護について理解できる ３．身体防御機能障害のある成人への看護について理解できる		

授業内容	備考
１．栄養代謝機能障害のある患者の看護 １）原因と障害の程度のアセスメントと看護 （１）肝機能障害 ①肝性脳症　②浮腫・腹水　③倦怠感　④黄疸　⑤出血傾向 （３）代謝機能障害 ①肥満　②るい痩　③痛風発作 （３）生命・生活への影響 ２）主な検査と治療、それらに対する看護 （１）肝生検 ３）病期や機能障害に応じた看護 （１）急性肝炎・慢性肝炎（肝庇護療法・インターフェロン療法の看護も含む） （２）肝硬変（代償期・非代償期） （３）食道静脈瘤（食道静脈瘤硬化療法の看護も含む） （４）肝癌（肝動脈塞栓術、肝切除術の看護も含む） （５）高尿酸血症　（６）脂質異常症 ２．脳・神経機能障害のある患者看護 １）原因と障害の程度のアセスメントと看護 （１）運動・感覚器障害　（２）言語機能障害　（３）高次脳機能障害 （４）生命・生活への影響 ２）主な検査と治療、それらに対する看護 （１）脳波検査　（２）髄液検査　（３）脳血管造影 （４）開頭術（脳室ドレナージの内容も含む）　（５）穿頭術 （６）血管バイパス術　（７）脳室ドレナージ （８）脳室一腹腔短絡（シャント）術　（９）低体温療法 ３）病期や機能障害に応じた看護 （１）脳血管障害 ①クモ膜下出血　②一過性脳虚血・脳梗塞 （２）脳腫瘍　（３）頭部外傷　（４）脊髄損傷 ３．身体防御機能障害のある患者の看護 １）原因と障害の程度のアセスメントと看護 （１）免疫機能障害　(2)骨髄機能障害　（３）生命・生活への影響 ２）主な検査と治療、それらに対する看護 （１）骨髄穿刺　（２）免疫抑制薬　（３）ステロイド療法 （４）粘膜皮膚生検 ３）病期や機能障害に応じた看護 （１）ＨＩＶ（抗ＨＩＶ療法の看護も含む） （２）自己免疫性疾患 ①全身性エリテマトーデス　②全身性強皮症　③多発性筋炎 ④シェーグレン症候群　⑤ベーチェット病 （３）血液悪性疾患：悪性リンパ腫　白血病	＜関連科目＞ 解剖生理学 薬理学 臨床検査 疾病治療論

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	成人看護学：「消化器」「内分泌・代謝」「脳・神経」「血液・造血器」「アレルギー　膠原病　感染症」　医学書院 基礎看護技術Ⅰ：医学書院 フィジカルアセスメントがみえる：メディックメディア

授業科目	成人看護実践論Ⅲ		
教育方法 開講学期	講義 2年次　　1学期	単位・時間数	1単位　　30時間
講師名	非常勤講師・機構講師（看護部）		
科目目標	１．内分泌障害のある成人への看護について理解できる ２．内部環境調節機能障害のある成人への看護について理解できる ３．排泄機能障害のある成人への看護について理解できる ４．性・生殖機能障害のある成人への看護について理解できる		

授業内容	備考
１．内分泌機能障害のある患者の看護 １）原因と障害の程度のアセスメントと看護 （１）甲状腺機能障害　(2) 副腎機能障害 （３）下垂体機能障害　（４）生命・生活への影響 ２）主な検査と治療、それらに対する看護 （１）ホルモンの血中濃度測定　（２）ホルモン負荷試験 ３）病期や機能障害に応じた看護 （１）甲状腺疾患（甲状腺機能亢進症） （２）甲状腺機能低下症（甲状腺ホルモン療法含む） （２）腫瘍（（甲状腺がん・甲状腺切除術を含む）、下垂体腫瘍）） ２．内部環境調節機能障害のある患者の看護 １）原因と障害の程度のアセスメントと看護 （１）体温調節障害　（２）血糖調節障害　（３）体液量調節障害 （４）電解質調節機能障害　（５）酸塩基平衡調節障害 （６）生命・生活への影響 ２）主な検査と治療、それらに対する看護 （１）糖負荷試験（OGTT）　（２）静脈性尿路造影 （３）腎機能検査　①クリアランス試験②フィッシュバーグ濃縮試験③PSP排泄試験 （４）腎生検　（５）腎移植 ３）病期や機能障害に応じた看護 （１）Ⅰ型糖尿病・Ⅱ型糖尿病 （食事療法、運動療法、インスリン療法、経口薬療法の内容含む） （慢性期の患者の看護、自己管理の学習支援を含む） （２）慢性腎不全（腎移植・透析療法・食事療法の内容含む）・急性腎不全 （３）慢性腎臓病　（４）ネフローゼ症候群(食事療法の内容含む) ３．排泄機能障害のある患者の看護 １）原因と障害の程度のアセスメントと看護 （１）蓄尿・排尿障害　（２）生命・生活への影響 ２）主な検査と治療、それらに対する看護 （１）尿流動態検査　（２）膀胱鏡検査　（３）静脈性尿路造影 （４）勃起障害治療　（５）性交障害治療(男性) ３）病期や機能障害に応じた看護 （１）膀胱がん（膀胱切除術、尿路変向術の術前～術後のセルフケア習得までの内容含む） （２）前立腺がん（前立腺切除術、ホルモン療法の内容含む） （３）腎・尿路結石　（４）前立腺肥大 ４．性・生殖機能障害のある患者の看護 １）原因と障害の程度のアセスメントと看護 （１）性・生殖機能障害（２）ホルモン欠落症状　（３）生命・生活への影響 ２）主な検査と治療、それらに対する看護 （１）性感染症治療　（２）診療介助における看護（外診および内診時） （３）性交障害治療(女性) ３）病期や機能障害に応じた看護 （１）乳癌（乳癌内分泌療法、乳房切除術の内容含む）(2)女性生殖器切除術	＜関連科目＞ 解剖生理学 薬理学 臨床検査 疾病治療論

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	成人看護学：「内分泌・代謝」「腎・泌尿器」「女性生殖器」　医学書院 基礎看護技術Ⅰ：医学書院　フィジカルアセスメントがみえる:メディックメディア

授業科目	成人看護学演習Ⅰ		
教育方法 開講学期	講義　・　演習 2年次　　1学期	単位・時間数	1単位　　30時間
講師名	教員・院内講師（看護部）		
科目目標	慢性期・終末期における看護技術、思考過程を身につける		

回数	授業内容	授業方法	備考
1～6	1．慢性期における患者の看護過程の展開 1）セルフケア行動形成・維持への援助 2）社会的支援の獲得への援助 3）自己効力、セルフケア理論、病みの軌跡を活用した学習支援 4）家族の支援	講義・演習	＜関連科目＞ 解剖生理学Ⅲ 薬理学 臨床検査 疾病治療論Ⅲ
7～15	2．終末期における患者の看護過程の展開 1）全人的苦痛のアセスメント 2）死の受容過程と援助 (1)意思決定支援 3）心身における安楽の看護 ペインコントロール 4）グリーフケア 5）家族の支援		臨床看護総論 成人看護実践論Ⅰ ＜技術演習項目＞ 1．慢性期における学習支援 ＊事例を通して、臨床判断について学ぶ

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	成人看護学総論：医学書院 成人看護学「消化器」「内分泌・代謝」：医学書院 臨床看護総論：医学書院　　基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ　医学書院 フィジカルアセスメントがみえる：メディックメディア

授業科目	成人看護学演習Ⅱ		
教育方法 開講学期	講義　・　演習 2年次　　2学期	単位・時間数	1単位　　30時間
講師名	教員・院内講師（看護部）		
科目目標	1．救急看護・クリティカルケアの看護について理解できる 2．急性期・回復期における看護技術、思考過程を身につける		

授業内容	備考
1. 救急看護・クリティカルケア 1）救急度と重症度のアセスメント （1）意識レベル、神経学的所見 （2）フィジカルアセスメント 2）救急看護・クリティカルケアの基本 （1）心肺停止状態への処置　（2）ショックへの処置 （3）急性症状の応急処置　（4）外傷・熱傷・中毒の応急処置 （5）環境要因による傷害の応急処置　（6）感染症への処置 2．急性期・回復期における患者の状態に応じた援助の実際 1）大腸がんにより、人工肛門造設術を受ける患者の看護過程の展開 （1）手術前の患者の看護 ①手術前の患者のアセスメント ②手術に向けた準備 （術前オリエンテーション、術後の機能回復への援助、術前処置） （2）手術中の患者の看護（入室前・手術中・手術終了時） （3）手術後の回復を促進するための看護 ①手術後の患者のアセスメント ・手術侵襲と生体反応 ・手術後の患者の全身状態の観察 ②早期回復に向けた援助と術後合併症の予防 （4）地域・在宅への移行に向けた看護 ・就労に向けた援助 ・ストーマ管理 （5）手術前～手術後における家族への看護 （6）手術前～手術後における多職種間との連携・協働	＜関連科目＞ 解剖生理学 薬理学 臨床検査 疾病治療論 共通看護技術Ⅲ 臨床看護総論 〈技術演習〉 1. 手術前・手術後の看護 1）手術に向けた準備（術前オリエンテーション、術後の機能回復への援助） 2）手術後の患者の観察（フィジカルアセスメント・ヘルスアセスメント） 3）心電図モニター・12誘導心電図 4）ドレーンの管理 5）ストマ管理 6）BLS ＊事例を通して、臨床判断について学ぶ

評価の方法	筆記およびレポート等
テキスト	臨床看護総論・臨床外科看護総論：医学書院 成人看護学「循環器」「消化器」「呼吸器」：医学書院　　基礎看護技術Ⅰ:医学書院 パーフェクト臨床実習ガイド　成人看護Ⅰ　照林社 フィジカルアセスメントがみえる:メディックメディア

授業科目	成人看護学実習Ⅰ		
教育方法 開講学期	実習 2年次　　2学期	単位・時間数	2単位　　90時間
講師名	教員		
科目目標	慢性期にある対象の特徴を理解し、看護実践できる能力を養う		

授業内容

1．慢性期にある成人期の対象の身体的・心理的・社会的特徴

2．慢性期にある対象の看護上の問題の抽出、計画立案

3．慢性期にある対象の生活調整・QOLの維持を目指して、自己管理と社会生活への適応のための援助

4．看護師に必要な責任ある行動や態度

実習場所	実習要項参照
評価の方法	評価表に基づいた評価

授業科目	成人看護学実習Ⅱ		
教育方法 開講学期	実習 3年次　　1・2学期	単位・時間数	3単位　　90時間
講師名	教員		
科目目標	急性期及び回復過程にある成人期の対象の特徴を理解し、対象に応じた看護実践ができる能力を養う		

授業内容

1．急性期及び回復過程にある成人期の身体・心理・社会的特徴

2．急性期及び回復過程にある対象に行われている治療・処置・検査が心身に及ぼす影響

3．急性期及び回復過程にある対象の回復過程を助け、社会復帰に向けた援助

4．急性期及び回復過程にある対象の状態が家族へ与える影響と家族への援助

5．看護師に必要な責任ある行動や態度

実習場所	実習要項参照
評価の方法	評価表に基づいた評価

授業科目	成人看護学実習Ⅲ		
教育方法 開講学期	実習 3年次　　1・2学期	単位・時間数	3単位　　90時間
講師名	教員		
科目目標	終末期にある対象の苦痛を全人的苦痛（トータルペイン）として理解し、その緩和に努め、その人らしい生の終焉が迎えられるよう対象に応じた看護実践ができる能力を養う		

授業内容

１．終末期にある対象の身体的・心理的・社会的・霊的特徴

２．全人的な苦痛の軽減に向けた援助

３．家族を含めた看護

４．看護師に必要な責任ある行動や態度

実習場所	実習要項参照
評価の方法	評価表に基づいた評価

専門分野（老年看護学）

授業科目	老年看護学概論		
教育方法 開講学期	講義 1年次　2学期	単位・時間数	1単位　15時間
講師名	教員		
科目目標	1．高齢者の特徴と健康及び健康問題を理解できる 2．老年看護の概念と機能・役割を理解できる		

授業内容	備考
1．老年期の理解 1）ライフサイクル　2）人口学的指標　3）健康指標 4）老年期の発達と成熟　5）高齢者の多様性 2．高齢者の健康の特徴 1）加齢に伴う変化　2）高齢者にとっての健康 3．高齢者を取り巻く社会 1）高齢者の生活と家族　2）高齢社会における保健医療福祉の動向 4．老年看護の特徴 1）ノーマライゼーション　2）自立支援とエンパワーメント 3）廃用症候群の予防　4）エンド・オブ・ライフケア 5）家族との協働　6）在宅・施設につなげる看護 5．老年看護の倫理 1）高齢者差別　2）高齢者虐待 3）安全確保と身体拘束　4）高齢者の権利擁護 6．老年看護に有用な概念と理論 1）老化理論　2）離脱理論 7．介護保険と老年看護 1）高齢者の保健医療福祉の関連における看護 2）在宅高齢者の看護 8．高齢者を介護する家族への看護 1）介護家族の生活と健康　2）介護家族への看護	＜関連科目＞ 成人看護学概論 地域・在宅看護論 社会福祉 看護学概論

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	老年看護学：医学書院 老年看護　病態・疾患論：医学書院 国民衛生の動向

授業科目	老年看護実践論Ⅰ		
教育方法 開講学期	講義 2年次　　1学期	単位・時間数	1単位　　30時間
講師名	非常勤講師・教員		
科目目標	加齢による変化が生活に及ぼす影響と、高齢者の生活の特徴を踏まえ、健康の維持・増進に向けた看護を理解する		

回数	授業内容	授業方法	備考
1	1．高齢者のヘルスアセスメント		＜関連科目＞
2	1）身体的健康のアセスメント		成人看護学概論
2	2）生活の自立状態のアセスメント		疾病治療論
2	（1）基本的日常生活活動（ＢＡＤＬ）		地域・在宅看護論
2	（2）手段的日常生活活動（ＩＡＤＬ）		日常生活援助技術
2	（3）高齢者総合機能評価（ＣＧＡ）		
2	3）心理・社会的健康のアセスメント		
2	4）環境・生活史のアセスメント		
			＜演習項目＞
3	2．高齢者の生活機能を整える看護		1．高齢者疑似体験
3	1）コミュニケーションのアセスメントと		
3	看護		
4	2）歩行・移動動作のアセスメントと看護	講義	
5	3）食生活のアセスメントと看護	演習	
6	4）排泄のアセスメントと看護		
7	5）清潔・衣生活のアセスメントと看護		
8	6）生活リズムのアセスメントと看護		
9	7）セクシュアリティのアセスメントと看護		
10	8）社会参加のアセスメントと看護		
11	3．高齢者に特有な症候と看護		
12	1）せん妄		
13	2）脱水症		
13	3）睡眠障害		
13	4）排尿障害		
13	5）便秘		
14	6）摂食･嚥下障害		
14	7）低栄養		
15	8）廃用症候群		
15	9）骨粗鬆症		

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	老年看護学：医学書院 老年看護　病態・疾患論：医学書院 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ：医学書院

授業科目	老年看護実践論Ⅱ		
教育方法 開講学期	講義 2年次　1学期	単位・時間数	1単位　30時間
講師名	院内講師（看護部）		
科目目標	1．老年期に起こりやすい運動機能障害患者の看護を理解する 2．老年期に起こりやすい感覚機能障害患者の看護を理解する 3．老年期に起こりやすい身体防御機能障害患者の看護を理解する 4．老年期に起こりやすい認知症患者の看護を理解する		

授業内容	備考
1．運動機能障害患者の看護 1）原因と障害の程度のアセスメントと看護 （1）姿勢機能障害　（2）移動機能障害　（3）作業機能障害 （4）生命・生活への影響 2）主な検査と治療、それらに対する看護 （1）脊髄造影　椎間板造影　（2）筋生検 （3）ギプス固定　（4）牽引法　（5）人工関節置換術 3）病期や機能障害に応じた看護 （1）関節リウマチ　（2）椎間板ヘルニア　（3）大腿骨頚部骨折 2．感覚器機能障害患者の看護 1）原因と障害の程度のアセスメントと看護 （1）視覚障害　（2）聴覚障害 （3）嗅覚障害　（4）味覚障害 （5）生命・生活への影響 2）主な検査と治療、それらに対する看護 （1）眼底検査　（2）オージオメーター検査 （3）鼻腔内視鏡検査　（4）ろ紙ディスク法 （5）眼底光凝固療法　（6）網膜剥離治療 （7）人工眼内レンズ挿入術　（8）鼓室形成術 （9）鼻腔内手術　(10) 舌癌手術（切除術・放射線療法） (11) ステロイド療法 3）病期や機能障害に応じた看護 （1）中途視覚障害者　（2）突発性難聴 （3）メニエール病　（4）副鼻腔炎 （5）末梢神経障害 3．身体防御機能障害患者の看護 1）原因と障害の程度のアセスメントと看護 （生命・生活への影響含む） （1）生検（粘膜・皮膚）　（2）スキンテスト （3）減感作療法　（4）ステロイド療法 3）病期や機能障害に応じた看護 （1）疥癬　（2）熱傷 （3）白癬　（4）黒色腫　（5）帯状疱疹 4．認知症のある患者の看護 1）症状を抱える患者の看護 （1）コミュニケーション方法　（2）行動･心理症状と生活への影響 2）検査・治療を受ける患者の看護 （1）療法的アプローチ　（2）家族への支援とサポートシステム	＜関連科目＞ 解剖生理学 疾病治療論 成人看護学 疾病治療論Ⅳ ROM・MMTは 疾病治療論Ⅳ で履修

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	老年看護学：医学書院 老年看護　病態・疾患論：医学書院 成人看護学「運動器」「眼」「耳鼻咽喉」「皮膚」「脳・神経」：医学書院

授業科目	老年看護学演習			
教育方法 開講学期	講義　・　演習 2年次　　1学期	単位・時間数	1単位	30時間
講師名	教員			
科目目標	老年看護の実践に共有する看護観察や看護技術、思考過程について学び、生活機能の維持・悪化予防のための基礎的能力を身につける			

回数	授業内容	授業方法	備考
1 2 3～6 7～11 12～15	1.老年期にある患者の看護過程の展開と患者の状態に応じた援助の実際 1）大腿骨頸部骨折の患者の看護過程の展開 （1）回復期にある患者 （2）手術後骨盤底筋群の低下により、尿失禁のある患者の援助 （3）廃用症候群予防のための援助 （4）退院後を見据えた援助 （5）家族の支援 2.高齢者のレクリエーションの意義	講義演習	＜関連科目＞ 日常生活援助技術 成人看護学 地域・在宅看護論 ＜技術演習項目＞ 1．義歯の取り扱いと口腔ケア 2．高齢者のリハビリ、自動・他動運動 3.レクリエーションの企画 4．身近な高齢者のライフヒストリーを聴く （高齢者への聞き書き） *事例を通して、臨床判断について学ぶ

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	老年看護学：医学書院 老年看護　病態・疾患論：医学書院 成人看護学「運動器」：医学書院 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ：医学書院

授業科目	成人看護実践論Ⅲ		
教育方法 開講学期	講義 2年次　　1学期	単位・時間数	1単位　　30時間
講師名	非常勤講師・機構講師（看護部）		
科目目標	１．内分泌障害のある成人への看護について理解できる ２．内部環境調節機能障害のある成人への看護について理解できる ３．排泄機能障害のある成人への看護について理解できる ４．性・生殖機能障害のある成人への看護について理解できる		

授業内容	備考
１．内分泌機能障害のある患者の看護 １）原因と障害の程度のアセスメントと看護 （１）甲状腺機能障害　(2) 副腎機能障害 （３）下垂体機能障害　（４）生命・生活への影響 ２）主な検査と治療、それらに対する看護 （１）ホルモンの血中濃度測定　（２）ホルモン負荷試験 ３）病期や機能障害に応じた看護 （１）甲状腺疾患（甲状腺機能亢進症） （２）甲状腺機能低下症（甲状腺ホルモン療法含む） （２）腫瘍（（甲状腺がん・甲状腺切除術を含む）、下垂体腫瘍）） ２．内部環境調節機能障害のある患者の看護 １）原因と障害の程度のアセスメントと看護 （１）体温調節障害　（２）血糖調節障害　（３）体液量調節障害 （４）電解質調節機能障害　（５）酸塩基平衡調節障害 （６）生命・生活への影響 ２）主な検査と治療、それらに対する看護 （１）糖負荷試験（OGTT）　（２）静脈性尿路造影 （３）腎機能検査　①クリアランス試験②フィッシュバーグ濃縮試験③PSP排泄試験 （４）腎生検　（５）腎移植 ３）病期や機能障害に応じた看護 （１）Ⅰ型糖尿病・Ⅱ型糖尿病 （食事療法、運動療法、インスリン療法、経口薬療法の内容含む） （慢性期の患者の看護、自己管理の学習支援を含む） （２）慢性腎不全（腎移植・透析療法・食事療法の内容含む）・急性腎不全 （３）慢性腎臓病　（４）ネフローゼ症候群(食事療法の内容含む) ３．排泄機能障害のある患者の看護 １）原因と障害の程度のアセスメントと看護 （１）蓄尿・排尿障害　（２）生命・生活への影響 ２）主な検査と治療、それらに対する看護 （１）尿流動態検査　（２）膀胱鏡検査　（３）静脈性尿路造影 （４）勃起障害治療　（５）性交障害治療(男性) ３）病期や機能障害に応じた看護 （１）膀胱がん（膀胱切除術、尿路変向術の術前～術後のセルフケア習得までの内容含む） （２）前立腺がん（前立腺切除術、ホルモン療法の内容含む） （３）腎・尿路結石　（４）前立腺肥大 ４．性・生殖機能障害のある患者の看護 １）原因と障害の程度のアセスメントと看護 （１）性・生殖機能障害（２）ホルモン欠落症状　（３）生命・生活への影響 ２）主な検査と治療、それらに対する看護 （１）性感染症治療　（２）診療介助における看護（外診および内診時） （３）性交障害治療(女性) ３）病期や機能障害に応じた看護 （１）乳癌（乳癌内分泌療法、乳房切除術の内容含む）(2)女性生殖器切除術	＜関連科目＞ 解剖生理学 薬理学 臨床検査 疾病治療論

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	成人看護学：「内分泌・代謝」「腎・泌尿器」「女性生殖器」　医学書院 基礎看護技術Ⅰ：医学書院　フィジカルアセスメントがみえる:メディックメディア

授業科目	老年看護学実習Ⅱ		
教育方法 開講学期	実習 2年次　　2学期	単位・時間数	2単位　　90時間
講師名	教員		
科目目標	健康障害を持つ老年期にある対象を理解し、看護実践できる能力を養う		

授業内容

１．健康障害を持つ老年期にある対象の特徴

２．健康障害を持つ老年期にある対象の看護上の問題の抽出

３．健康障害を持つ老年期にある対象に合わせた看護

４．健康障害を持つ老年期にある対象を支える家族への援助の必要性

５．看護師に必要な責任ある行動や態度

実習場所	実習要項参照
テキスト	評価表に基づいた評価

専門分野（小児看護学）

授業科目	小児看護学概論		
教育方法 開講学期	講義 2年次　1学期	単位・時間数	1単位　15時間
講師名	非常勤講師・教員		
科目目標	小児看護の概念と機能・役割が理解できる		

授業内容	備考
1．小児看護とは 1）小児看護の対象 2）小児看護の目的と役割 3）子どもと家族の動向 2．小児看護の変遷と課題 1）児童観の変遷 2）小児看護の変遷 3）小児看護の課題 3．小児看護における倫理 1）子どもの権利 2）小児看護と倫理的配慮 4.子どもと家族 1）子どもにとっての家族とは 2）家族とのかかわり 5．小児看護と法律・施策 1）子どもと家族を取り巻く社会 2）母子保健施策 3）小児保健医療福祉施策 6.小児看護で用いられる理論 1）エリクソンの自我発達理論 2）ピアジェの認知発達理論 3）ボウルビィのアタッチメント理論	＜関連科目＞ 心理学 社会学 教育学 公衆衛生学 社会福祉 母性看護学 精神看護学

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	小児看護学概論　小児臨床看護総論　小児看護学1：医学書院 国民衛生の動向

授業科目	小児看護実践論Ⅰ		
教育方法 開講学期	講義 2年次　　1学期	単位・時間数	1単位　　30時間
講師名	機構講師（看護部）		
科目目標	1. 小児の成長・発達が理解できる 2. 小児期の成長・発達及び健康な生活を促すための看護を理解できる		

授業内容	備考
1．子どもの成長・発達 　1）成長・発達とは 　2）成長・発達に一般的原則 　3）成長・発達に影響する因子 　4）成長の評価 　5）発達の評価 2．乳児期の成長・発達と看護 　1）形態的特徴　　2）身体生理の特徴 　3）各機能の特徴　　4）乳児の養育および看護 3．幼児期の成長・発達と看護 　1）形態的特徴　　2）身体生理の特徴 　3）各機能の特徴　　4）幼児の養育および看護 4．学童期の成長・発達と看護 　1）形態的特徴　　2）身体生理の特徴 　3）各機能の特徴　　4）学童を取り巻く諸環境 　5）学童の養育および看護 5．思春期の成長・発達と看護 　1）形態的特徴　　2）身体生理の特徴 　3）各機能の特徴　　4）思春期を取り巻く諸環境 　5）思春期の看護	＜関連科目＞ 心理学 社会学

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	小児看護学概論　小児臨床看護総論　小児看護学1：医学書院

授業科目	小児看護実践論Ⅱ		
教育方法 開講学期	講義 2年次　　2学期	単位・時間数	1単位　　30時間
講師名	機構講師（看護部）・教員		
科目目標	小児の健康段階と様々な状況に応じた看護を理解できる		

授業内容	備考
1．病気・障害をもつ子どもと家族の看護 1）病気・障害が子どもと家族に与える影響 2）子どもの健康問題と看護 2．さまざまな状況にある子どもと家族の看護 1）入院中の子どもと家族の看護（活動制限・隔離） 2）外来における子どもと家族の看護（トリアージ・感染防止） 3）在宅療養中の子どもと家族の看護（医療的ケア児） 4）災害時の子どもと家族の看護 5）虐待を受けた子どもと家族の看護 6）救急救命処置が必要な子どもと家族の看護（子どもの事故） 7）障害のある子どもと家族の看護（先天性疾患・発達障害） 3.子どもにおける疾病の経過と看護 1）慢性期にある子どもと家族の看護（1型糖尿病・アトピー性皮膚炎） 2）急性期にある子どもと家族の看護（気管支喘息・川崎病） 3）周手術期の子どもと家族の看護（鎖肛・ファロー四徴症） 4）終末期にある子どもと家族の看護（急性リンパ性白血病） 4.症状を示す子どもの看護 1）不きげん 2）啼泣 3）痛み 4）発熱 5）嘔吐・下痢 6）脱水	＜関連科目＞ 解剖生理学 保健医療論 公衆衛生学 疾病治療論

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	小児看護学概論　小児臨床看護総論　小児看護学1：医学書院 小児臨床看護各論　小児看護学2：医学書院

授業科目	小児看護学演習		
教育方法 開講学期	講義　・　演習 2年次　　2学期	単位・時間数	1単位　　30時間
講師名	教員		
科目目標	小児看護の実践における看護観察や看護技術、思考過程を身につける		

授業内容	備考
1．子どものアセスメント	＜関連科目＞
1）コミュニケーション	解剖生理学
2）バイタルサイン測定	
3）身体測定	
4）フィジカルアセスメント	
2．検査・処置を受ける子どもの看護	成人看護学
1）子どもの検査・処置の特徴	母性看護学
2）発達に応じたプレパレーション	地域･在宅看護論
3）吸引・酸素療法	
4）与薬	
5）注射・輸液療法	
6）検体採取	＜技術演習項目＞
（採血・採尿・骨髄穿刺・腰椎穿刺）	
3．小児の看護過程の展開	1.バイタルサイン測定
1）気管支喘息の急性期にある子ども	2.身体測定
（1）喘息発作時の援助	3.プレパレーション
（2）治療・処置に対する理解が得られにくい子どもへの援助	
（3）家族の支援	

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	小児看護学概論　小児臨床看護総論　小児看護学1：医学書院 小児臨床看護各論　小児看護学2：医学書院

授業科目	小児看護学実習		
教育方法 開講学期	実習 3年次　　1・2学期	単位・時間数	3単位　　90時間
講師名	教員		
科目目標	小児各期の発達段階の特徴を理解し、対象の健康段階に応じた看護援助を実践する能力を養う		

授業内容

1．子どもの身体面・心理面・社会面での成長・発達

2．子どもの成長・発達段階に合わせた日常生活援助

3．健康障害をもつ子どもの理解と、成長・発達や健康段階に応じた援助

4．健康障害をもつ子どもと家族の相互関係と家族への援助

5．小児を取り巻く保健医療福祉のシステムと多職種との連携・協働

6．看護師に必要な責任ある行動と態度

実習場所	実習要項参照（保育園又はこども園、病棟で実習を行う）
評価の方法	評価表に基づいた評価

専門分野（母性看護学）

授業科目	母性看護学概論		
教育方法 開講学期	講義 2年次　1学期	単位・時間数	1単位　15時間
講師名	非常勤講師・教員		
科目目標	1．リプロダクティブ・ヘルスの視点から女性のライフサイクル各期における看護の役割と意義について理解する 2．周産期医療システムと母子保健施策について理解する		

授業内容	備考
1．母性看護の基盤となる概念 1）母性・父性・親性とは 2）母子関係と家族発達（家族関係の調整・愛着形成含む） 3）セクシュアリティ(人間の性) 4）リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 5）ヘルスプロモーション、ウェルネス、女性を中心としたケア、家族を中心としたケア 6）プレコンセプションケア 7）母性看護と倫理 2．母子の健康生活と法律・制度（妊娠期からの切れ目のない支援に関する法や施策） 1）母性看護の変遷 2）母子保健統計の動向 3）周産期医療のシステムと母子保健施策 3．女性のライフステージ各期における看護（健康教育含む） 1）思春期女性の健康課題と看護 （1）第二次性徴 （2）性意識・性行動の発達 （3）月経異常 （4）性感染症(STI) 2）成熟期女性の健康課題と看護 （1）家族計画 （2）不妊症、不育症 （3）女性生殖器の疾患 （4）性暴力、ＤＶ 3）更年期女性の健康課題と看護 （1）ホルモンの変化と閉経 （2）更年期症状 4）老年期女性の健康課題と看護 （1）骨盤臓器脱 （2）老人性膣炎、外陰炎	＜関連科目＞ 疾病治療総論 社会学 成人看護学 小児看護学 解剖生理学

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	母性看護学概論：医学書院 国民衛生の動向

授業科目	母性看護実践論Ⅰ		
教育方法 開講学期	講義 2年次　　1学期	単位・時間数	1単位　　30時間
講師名	非常勤講師・教員		
科目目標	妊娠・分娩・産褥期にある対象および早期新生児期にある対象の看護を実践するために必要な知識を身につける		

授業内容	備考
1．妊娠期における看護	＜関連科目＞
1）妊娠期の身体的特性	解剖生理学
2）妊娠期の心理・社会的特性	疾病治療総論
3）妊婦と胎児のアセスメント	小児看護学
4）妊婦と家族の看護	
2．分娩期における看護	＜技術演習項目＞
1）分娩の要素	1.妊婦体験
2）分娩の経過	
3）産婦・胎児，家族のアセスメント	
4）産婦と家族の看護	
5）分娩期の看護の実際	
3．産褥期における看護	
1）産褥経過	
2）褥婦のアセスメント	
3）褥婦と家族の看護	
4．早期新生児期における看護	
1）早期新生児の生理	
2）早期新生児のアセスメント	
3）早期新生児の看護	

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	母性看護学概論：医学書院 母性看護学各論：医学書院 母性看護過程：医学書院

授業科目	母性看護実践論Ⅱ		
教育方法 開講学期	講義 2年次　　2学期	単位・時間数	1単位　　30時間
講師名	機構講師（看護部）・教員		
科目目標	妊娠・分娩・産褥期にある対象および早期新生児期にある対象の異常の看護を実践するために必要な知識を身につける		

授業内容	備考
１．妊娠の異常と看護	＜関連科目＞
１）ハイリスク妊娠（妊娠糖尿病）	疾病治療論
２）妊娠期の感染症	小児看護学
３）妊娠疾患(妊娠高血圧症候群・妊娠貧血・妊娠悪阻)	精神看護学
４）出生前診断	
５）妊娠持続期間の異常（流産・早産）	
６）異所性妊娠	
７）ハイリスク妊婦の看護	
２．分娩の異常と看護	
１）産道・娩出力・胎児・付属物の異常 （前置胎盤・常位胎盤早期剥離）	
２）胎児機能不全	
３）分娩時の損傷と異常出血	
４）産科処置と手術	
５）異常分娩時の産婦の看護	
６）帝王切開術	
３．産褥の異常と看護	
１）子宮復古不全	
２）産褥期の発熱（産褥熱・乳腺炎）	
３）産褥血栓症	
４）精神障害（産後うつ）	
５）異常のある褥婦の看護	
６）死産、障害を持つ新生児を出産した親への看護	
４．早期新生児の異常と看護	・小児の先天性疾患は小児疾病論で学ぶ ・保育器の管理を含む
１）早期新生児の健康問題	
２）家族への看護	

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	母性看護学概論：医学書院 母性看護学各論：医学書院 母性看護過程：医学書院

授業科目	母性看護学演習		
教育方法 開講学期	講義　・　演習 2年次　　2学期	単位・時間数	1単位　　30時間
講師名	教員		
科目目標	母性看護の対象と看護援助の特徴をふまえた観察や看護技術・思考過程を身につける		

授業内容	備考
1．母性看護に必要な看護技術 1）妊産婦の看護 （1）子宮底長・腹囲測定 （2）レオポルド触診法 （3）胎児心音聴取 2）褥婦の看護 （1）子宮底の触診 （2）子宮底の輪状マッサージ （3）乳頭・乳房の観察・触診 （4）乳頭・乳房マッサージ （5）児の抱き方 （6）哺乳・調乳・排気の仕方 3）早期新生児の看護 （1）衣服の着脱・おむつ交換 （2）沐浴 （3）臍処置 （4）環境調整 2．母性看護における看護過程(ウエルネス志向) 1）正常な妊娠期・分娩期・産褥期・早期新生児期にある対象の事例展開	＜関連科目＞ 小児看護学 成人看護学 ＜技術演習項目＞ 1.子宮底長・腹囲測定 2.レオポルド触診法 3.胎児心音聴取 4.子宮復古の観察・輪状マッ サージ 5.沐浴（抱き方衣服の着脱・オムツ交換・臍処置含む）

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	母性看護学概論：医学書院 母性看護学各論：医学書院 母性看護過程：医学書院

授業科目	母性看護学実習		
教育方法 開講学期	実習 3年次　　1・2学期	単位・時間数	3単位　　90時間
講師名	教員		
科目目標	妊娠・分娩・産褥期にある対象および早期新生児期にある対象の特徴を理解し、対象に応じた看護が実践できる能力を養う		

授業内容

１．妊娠経過、妊婦およびその家族への援助・保健指導

２．分娩経過、産婦およびその家族への援助

３．褥婦の健康状態に応じた看護

４．早期新生児の生理的変化、日齢に応じた看護

５．妊娠・分娩・産褥期における社会的支援および継続看護

６．看護師に必要な責任ある行動や態度

実習場所	実習要項参照
評価の方法	評価表に基づいた評価

専門分野（精神看護学）

授業科目	精神看護学概論		
教育方法 開講学期	講義 1年次　1学期	単位・時間数	1単位　15時間
講師名	教員		
科目目標	1．こころの構造と働きおよびその発達過程を理解し、健康なこころ作りと維持に向けた生活の在り方について理解する。 2．精神看護の目的、対象、看護の役割と機能について理解する。		

授業内容	備考
1．精神の健康 1）精神の健康 2）心の健康に対する普及啓発 3）精神の機能と構造 4）発達段階と精神の健康 2．精神看護の対象理解 1）生物学的側面、心理学的側面、社会学的側面 （1）免疫機能とサーカディアンリズム　（2）自律神経失調 2）対人関係の看護論 3）精神障害のとらえ方 （1）疾患モデルと障害モデル （2）国際生活機能分類（ICF）の考え方 3．精神領域における保健・医療・福祉の動向 1）精神保健医療福祉の歴史と看護 2）精神保健福祉の法制度 3）精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築	＜関連科目＞ 心理学 人間関係論 社会学 教育学 社会福祉 公衆衛生学

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	精神看護の基礎：医学書院 精神看護の展開：医学書院

授業科目	精神看護実践論Ⅰ		
教育方法 開講学期	講義 2年次　1学期	単位・時間数	1単位　30時間
講師名	教員・機構講師（看護師）		
科目目標	こころの健康を保持・増進するための援助について理解する		

授業内容	備考
1．対人関係と自己活用 1）臨床における自己理解、他者理解 2）リフレクションとしてのプロセスレコード 3）ストレス対処 4）リラクセーション 2．集団における心のはたらき 1）集団力動 2）家庭、地域、学校、職場における関係性 3．精神障害者の看護の特徴 1）安全な治療環境の提供と人権擁護 2）患者の権利擁護 （1）処遇　（2）隔離、身体拘束　（3）精神医療審査会 3）リスクマネジメント 4）リハビリテーション （1）社会復帰・社会参加の基本　（2）保健医療に関する資源と調整 （3）福祉に関する資源と調整　（4）人的資源の活用と調整 5）生きる力と強さに着目した援助 （1）ストレングス　（2）リカバリ （3）エンパワメント　（4）レジリエンス 4．災害時における地域精神保健医療活動 1）災害時の精神保健医療活動 2）災害時の精神保健初期対応 3）災害時の精神障がい者への治療継続への援助 5．リエゾン精神看護 1）心身相関と健康　2）身体疾患を持つ人の精神の健康 3）精神疾患を持つ人の身体の健康 4）患者と家族の精神の健康 5）看護職員の精神の健康 6）患者、家族、保健医療福祉の専門職間の連携促進	＜関連科目＞ 心理学 人間関係論 教育学 成人看護学概論 老年看護学概論 小児看護学概論 母性看護学概論 地域・在宅看護概論Ⅱ ＜技術演習項目＞ 1．プロセスレコードによるリフレクション

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	精神看護の基礎：医学書院 精神看護の展開：医学書院

授業科目	精神看護実践論Ⅱ		
教育方法 開講学期	講義 2年次　2学期	単位・時間数	1単位　30時間
講師名	非常勤講師		
科目目標	精神に障害を抱えた対象を理解し、対象を支える看護を学ぶ		

授業内容	備考
１．主な症状のアセスメントと援助 １）不安状態　２）抑うつ状態（自殺企図も含む） ３）躁状態　４）幻覚状態 ５）思考内容と思路の障害　６）強迫思考・強迫行為 ７）意識の変容　８）記憶障害 ９）離脱症状　１０）知的機能の障害 １１）身体的ケア ２．主な検査・治療・処置を受ける患者の看護 １）患者の受療行動と診察に伴う看護 ２）臨床検査を受ける患者の看護 ３）薬物療法と服薬管理（服薬自己管理を含む） ４）精神療法を受ける患者の看護 ５）リハビリテーション療法を受ける患者の看護 ６）電気けいれん療法を受ける患者の看護 ７）治療環境と行動制限に伴う看護 ８）家族への心理教育 ３．主な疾患患者の看護 １）統合失調症のある患者の看護 ４）生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群 ５）人格障害 ６）器質性精神障害、精神作用物質関連障害 ４．地域における精神障がい者のリハビリテーションの実際 １）保健所、市町村、精神保健福祉センター ２）精神科デイケア、精神科ナイトケア ３）精神科訪問看護	＜関連科目＞ 解剖生理学 疾病治療論 薬理学 臨床検査 栄養学 地域・在宅看護論

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	精神看護の基礎：医学書院 精神看護の展開：医学書院

授業科目	精神看護学演習		
教育方法 開講学期	講義　・　演習 2年次　　2学期	単位・時間数	1単位　　30時間
講師名	教員		
科目目標	精神看護の実践に共通する看護観察や看護技術、思考過程を身につける		

授業内容	備考
1．対人関係と自己活用 1）治療的コミュニケーション 2）ロールプレイングによる効果的な介入方法の体験 2．患者体験 1）幻覚体験 3．精神看護における対象の理解 1）面接技法（支持的面接） 2）観察技法 3）セルフケア能力 4）対象を取り巻く支援者 4．セルフケア看護アプローチを用いた精神疾患患者の看護展開 1）統合失調症患者の看護過程の展開（急性・慢性期） （1）幻覚・妄想のある患者 （2）退院支援 （3）支持的面接の実際	＜関連科目＞ 心理学 人間関係論 社会学 教育学 社会福祉 公衆衛生学 成人看護学 老年看護学 地域･在宅看護論 ＜技術演習項目＞ 1．支持的面接 2．患者体験

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	精神看護の基礎：医学書院 精神看護の展開：医学書院

授業科目	精神看護学実習		
教育方法 開講学期	実習 3年次　　1・2学期	単位・時間数	3単位　　90時間
講師名	教員		
科目目標	精神に障害をもつ対象の理解および、精神医療における看護の役割、機能の理解を深め、対象に応じた看護が実践できる基礎的能力を養う		

授業内容

1．精神に障がいを持つ対象の生きにくさ

2．患者－看護師関係の発展にむけての行動

3．精神に障害を持つ対象のセルフケアを促すための援助

4．地域で生活することに向けた看護の役割と機能

5．看護師として必要な責任ある行動と態度

実習場所	実習要項参照
評価の方法	評価表に基づいた評価

授業科目	看護の統合と実践Ⅰ		
教育方法 開講学期	講義 3年次　　1学期	単位・時間数	1単位　　30時間
講師名	院内講師（看護部・臨床工学技士）・教員		
科目目標	１．医療現場における危険因子を理解し、質の高い医療・看護を提供するためには医療事故防止が必要であることを理解できる ２．演習を通して、危険認識力、危険回避のための判断力を養い、安全な看護を提供するための実践力を養う ３．災害医療の基礎的知識を理解し、災害サイクルに応じた看護師の役割を理解できる。 ４．病院及び看護部門の組織、看護管理の本質を理解するとともに、管理的視点で看護活動を理解できる		

授業内容	備考
Ⅰ　医療安全	
１．医療安全を学ぶ意味	
２．事故防止の考え方	
１）医療事故と看護業務　　２）看護事故の構造	・基礎看護学の各看護技術の中で技術に伴う危険因子及び事故防止策についておさえる ・看護の統合と実践Ⅱ演習につなげる
３）看護事故防止の考え方	
３．診療の補助の事故防止	
４．療養上の世話の事故防止	
５．業務領域を超えて共通する間違いと発生要因	
１）業務領域を超えて共通する患者間違い	
２）間違いを誘発する多重課題、タイムプレッシャーと業務途中の中断	
３）危険な思い込みと行動パターン	
６．医療安全とコミュニケーション	
７．看護師の労働安全衛生上の事故防止	
８．組織的な安全管理体制への取り組み	
９．医療安全対策の国内外の潮流	
Ⅱ　医療機器の取り扱い	演習
１．ＭＥ機器の取り扱いと看護	1. シリンジポンプ
１）シリンジポンプ　　２）輸液ポンプ	2. 輸液ポンプ
３）低圧持続吸引　　４）心電図　　５）人工呼吸器	
Ⅲ　災害看護	
１．災害医療の基礎知識　　２．災害看護の基礎知識	
３．災害に応じた活動現場別の看護　　４．被災者特性に応じた災害看護の展開	
５．災害とこころのケア　　６．災害時要援助者への支援	
７．災害看護の実際	
Ⅳ　看護マネジメント	
１．看護管理学とは　　２．看護におけるマネジメント	
３．看護職のキャリアマネジメント　　４．看護サービスのマネジメント	
５．マネジメントに必要な知識と技術　６．看護を取り巻く諸制度	

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	医療安全：医学書院 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術：医学書院 災害看護学：メヂカルフレンド社 看護管理：医学書院

授業科目	看護の統合と実践Ⅱ		
教育方法 開講学期	講義 3年次　　2学期	単位・時間数	2単位　　30時間
講師名	院内講師（看護部）・教員		
科目目標	1．今まで学習してきた看護倫理を統合し、倫理的実践ができる基礎を養う 2．院内および地域における医療の必要性が理解できる 3．他の専門職の役割を理解し、看護職者の役割が分かる		

授業内容	備考
1．看護倫理 1）看護倫理とは 2）専門職の倫理 3）倫理的問題へのアプローチ 4）事例分析 2．多職種連携・協働 1）多職種連携・協働の歴史および概念・意義 2）医療関係者に求められる役割と多職種連携・協働を推進するためのスキル 3）入退院支援および病院から在宅へのスムーズな移行と多職種連携・協働における支援 4）多職種連携・協働の実際	〈関連科目〉 倫理学 医療概論 看護学概論 専門領域 ＜演習項目＞ 1．臨床倫理４分割法を用いた事例分析 2．多職種連携の実際

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	看護管理:医学書院 看護倫理:医学書院

授業科目	看護の統合と実践演習Ⅰ		
教育方法 開講学期	講義　・　演習 3年次　　1学期	単位・時間数	2単位　　45時間
講師名	非常勤講師・教員		
科目目標	1．看護研究の必要性を理解するとともに、看護実践の中での問題を科学的に追究できる姿勢を養う 2．看護に必要な国際的視野のを養うことができる		

授業内容	備考
1．看護研究 1）看護研究とは 2）看護研究の必要性 3）看護研究の倫理 4）研究デザイン 5）文献検索 6）ケーススタディの実際 7）発表会の企画・運営 2．国際看護 1）看護のグローバル化 2）国際看護学とは 3）多様な文化と看護 4）看護の国際協力活動	〈関連科目〉 看護学概論 看護倫理 専門領域 ＜演習項目＞ 1．実習の事例でケーススタディをまとめる 2．発表会の企画運営

評価の方法	筆記試験およびレポート等
テキスト	看護研究：医学書院 看護倫理：医学書院 講師資料

授業科目	看護の統合と実践演習Ⅱ			
教育方法 開講学期	講義 3年次　　1学期	単位・時間数	2単位	45時間
講師名	教員			
科目目標	1．複合的な事象において看護の知識を統合し活用できる判断能力を養う			

授業内容	備考
1．看護ケアのマネジメント 1）看護ケアのマネジメントと看護職の機能 （1）看護実践能力(知識・実践的思考力・行動) （2）臨床判断能力（気づき、解釈、反応する） 2）患者の権利の尊重 3）安全管理 4）看護業務の実践 （1）看護業務 （2）看護基準と業務手順 （3）クリティカルパス （4）情報の活用 （5）日常業務のマネジメント ・優先順位と多重課題への対応　・タイムマネジメント ・患者への説明と同意　・看護師間の連携・協働 （6）EBN/EBM/EBP	＜演習項目＞ 1．臨床の場面を設定した状況に応じた演習 2．安全管理の技術 ・KYT ・事故・インシデントの報告 ・患者の誤認防止 ・放射線の被ばく防止策 ・薬剤の曝露防止

評価の方法	筆記およびレポート、ケーススタディ等
テキスト	看護管理　：医学書院 看護倫理　：医学書院

授業科目	看護統合実習		
教育方法 開講学期	実習 3年次　　２学期	単位・時間数	3単位　　90時間
講師名	教員		
科目目標	病棟管理の実際を学び、チームの一員として看護を実施し、看護専門職としての役割を理解し自覚と責任感を養う		

授業内容

１．看護単位における看護

２．継続した看護を行うための看護活動

３．多職種との連携

４．病棟における継続した看護

５．複数の対象への看護援助

６．看護師に必要な責任ある行動や態度

実習場所	実習要項参照
評価の方法	評価表に基づいた評価